

# しるべ

美祢市立伊佐中学校  
第3学年 学年通信  
No. 003  
令和4年4月14日

## 先輩(苑場凌)さんから学ぼう



今年度から、伊佐中学校は、お隣の伊佐小学校と一緒に、学校名が「美祢市立小中一貫校伊佐小中学校」になりました。昨年度末に「伊佐小中学校」のマスコットキャラクターをつくるために、全児童・生徒から募集をし、3年生の高月さんの「いさゆめちゃん」が選ばれました。そしてその「いさゆめちゃん」をもとに、伊佐中の卒業生で、漫画家の苑場凌さんがデザインをしてくださいました。

その苑場さんを4月14日(水)の5校時に講師としてお招きし、全校生徒と伊佐小の5・6年生がお話を聴いたり、質問をしたりする時間を設けました。苑場さんは、伊佐町堀越がご出身です。小学校5年生の時にこれまで通っていた堀越小から4校(伊佐小・河原小・上野小・堀越小)が合併してできた今の伊佐小に通われたこと、中学校時代は夏は水泳部、冬は陸上部に所属し、駅伝大会で走ったこと、正午前にサイレンが鳴り、伊佐鉦山の発破の振動で学校が大きく揺れたこと、そして今漫画家をしているのは、母の「漫画家になったら？」の一言がきっかけだったことなど、ご自身の小中学生の時のお話をしてくださいました。話を終えてから、児童・生徒の質問タイムがありました。その中で印象に残ったことが3つあったので、まとめてみました。

森岡さんの「漫画の魅力は何ですか」の質問に対して…

「読み手と描き手で魅力は違うかもしれない。描き手から見た漫画の魅力は、インクと紙さえあれば、好きな世界や思ったことを気楽にすぐ形にできる。映画だと脚本、キャストといろいろな人がかかわらないとつくるができないが、漫画は一人で全部つくるができる。」

山本さんの「漫画を描くときに大切にされていることは何ですか」の質問に対して…

「1つのものを最後までやって完成させること。一本の線を丁寧に描くこと。納得いくまで何度も何度もやり直して描いている。」

池部さんの「美祢市のよいところは何ですか」の質問に対して…

「明治維新にかかわる歴史や桜、ジオパークなどの自然に恵まれている。そのような今あるものを違う視点から見るのが大切なのではないか。」

3年生が進んで挙手をして質問する姿から、頼もしさと、後輩に先輩としてあるべき姿を見せることができたうれしさを感じました。私も今回の講演会の前に苑場さんについて調べてみました。その中で、美祢社会復帰促進センターの受刑者の方に漫画指導をされるなど、様々な形で故郷への貢献活動をされていることを知りました。苑場さんのお話から多くのことを学べた1時間となりました。

